



とうきょうすくわくプログラム活動レポート

「前回の活動を発展させ、 素材と難易度を変えて挑戦する」(1歳児・2回目)

1歳児の2回目となる今回は、前回の活動で経験した素材や関わりをもとに、今回は素材の形や大きさ、扱い方に少し変化を加えました。これまでの経験を活かしながら、無理のない範囲で新しいことに取り組むことで、子どもたちの「やってみようとする気持ち」につなげたいと考え、今回のテーマに設定しました。



絵本の動きを真似して、身体を曲げたり伸ばしたり。

活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・手作りジョイントマット ・バランスストーン
- ・いろんな素材センサリーマット ・ウェーブバランス平均台
- ・タイニークライマー



活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

- ・センサリーマットに興味を示し、マットの上を積極的に歩いていた。気に入った感触があると、何度も繰り返し歩いたり、手で触れたりしようとする様子が見られた。
- ・自ら手を伸ばし、様々な感触を楽しんでいた。指をさして、「あか」「あお」と色の名前を言ったり、「あったかい」「つめたい」「かたい」等、感触の違いに気付いたりする様子も見られた。
- ・保育者の手を借りず、バランスストーンに一人で挑戦しようとする姿が見られた。また、保育者の援助なしで、自分でバランスを取りながら昇り降りをすることができていた。



先生たちのふり返り

- ・手や足の裏で様々な素材に触れたことで、それぞれの素材の色や感触の違いに気付く様子があった。感触の違いを自分自身で感じることができていた。
- ・ふわふわの素材に触れて布団を連想したのか、頭を乗せて寝転がる様子が見られた。実際に素材に触れたことでイメージが広がり、遊びの幅が広がっていた。
- ・「固い方はどっち？」等、保育者の問いかけの意味を理解し、触り比べて保育者に伝える様子が見られた。固い、柔らかい、冷たい等、実際に感じる感覚と言葉の意味が繋がり、様々な感触を感じることができていた。
- ・バランスストーンでは、今回は保育者の援助を求める姿が多かったが、二度目の今回は一人で挑戦しようとする姿が多く見られていた。体の使い方が分かり、うまく動かせるようになったことで、一人で出来る自信がついた様子だった。



子どもたちの姿から見えた“学び”

前回の経験があったことで、新しい素材や少し難しくなった関わりにも、落ち着いて取り組む姿が見られました。これまでの活動が、次の挑戦につながっていることを感じます。